

世界に学ぶ 女性の活躍

米国初の女性副大統領に就任したカマラ・ハリス氏は、就任前に少女らを励ます演説をしました。「わたしは副大統領となる最初の女性かもしれませんが、決して最後ではありません」と呼びかけ、少女たちも米国も可能性に満ちていることを訴えました。そして、性別に関係なく「志高く夢みよ、信念をもって先陣を切れ、たんに前例がないからと他人が否定しても、わが道をゆけ。わたしたちはみなさんの一歩一歩に喝采を送ります」と子どもたちにメッセージを伝えました。

フィンランドでは首相を含め4人が30歳代で、内閣は19人中12人が女性です。(2020年12月現在)「人口が少ないことで人材を無駄にできない意識が強く、国の将来に若い人、女性の力が欠かせない」ということを皆が理解しており、教育の機会均等徹底がその下支えになっているとのこと。一方、日本の内閣は平均年齢が60歳で、大臣20人中2人が女性です。

海外では、女性の首相が多くいます。ドイツのメルケル首相、台湾の蔡英文総統、ニュージーランドのアーダム首相、フィンランドのマリン首相、アメリカのハリス副大統領などです。女性という観点だけではなく、新型コロナについての素早い対応や弱者に共感し寄り添う姿勢、実行力のある政策などが評価されています。

私たちの身近な問題のヒントは、世界に目を向けることから得られるかもしれません。

男女共同参画 川柳

妻は子を 上手く仲間に してしまう 寸鉄
おとりよせ 夫婦で笑顔 共有し 清子



～ 子どもたちは今 ～

近頃の子どもは「よい子は川で遊ばない」「知らない人とは話をしない」だって。俺の子どもの頃は川が、山が、じじいばが、良き先生であり、友達だった。

男は男らしく、女は女らしくだった。今の時代は、そんなことでなく、『自分らしく』を求めていくべきであろう。

子どもの優しさ、素直さを味わったことがあった。松本市の小学校で、ぬかくどを炊いておむすびを作った。そのうちの一校の子どもたちは、これがきっかけで、なんと安曇野の拾ヶ堰を訪れ、食の大切さ、昔の人の力強さを知ったという。

そして、ある子どもは2つあげたおにぎりをひとつだけ食べ、ひとつは残していた。聞くと「母ちゃんにあげたい」という。子どもの心は、俺の子どもの頃と変わらないことを感じて、安心した。これからも、ぬかくど体験の活動を通して、安曇野と松本の子どもたちとを少しでもつないでいければ幸いに思う。



湧 愛

YOU & I

編集・監修・発行
安曇野市男女共同参画推進会議
安曇野市男女共同参画コミュニケーター
安曇野市
事務局：安曇野市人権男女共同参画課
電話：(0263) 71-2000(代)
FAX：(0263) 71-5155

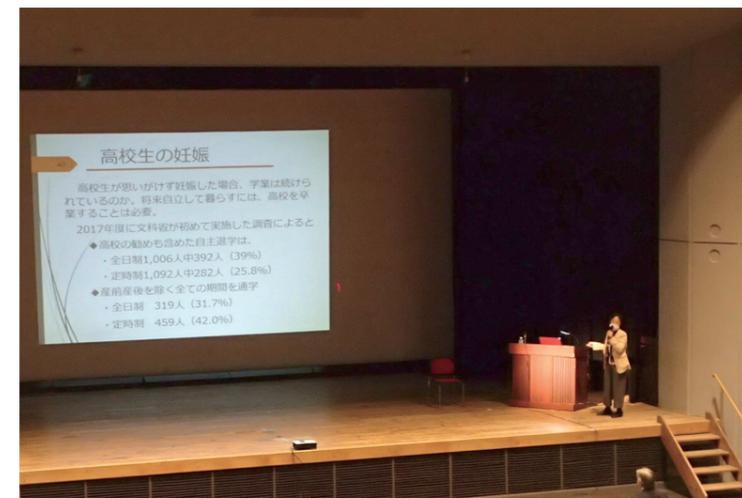
女性の人権を考える

去る11月10日、豊科公民館で企業人権啓発講演会「女性の人権を考える」が開催されました。講師の気賀沢葉子氏は、心理カウンセラーであり、駒ヶ根市の女性市議会議員でもあります。

講演は、夫婦別姓・暮らしの中の男女共同参画を見直す・女性の人権・女性の貧困が招く子どもの貧困・国際的観点から見た日本そして長野県といった5つの内容でした。その中の夫婦別姓の話では「自分が結婚した時には、全く何も考えずに夫の姓になったが、子どもには、どちらの姓を選択するかを自分で考えて決めるように、と伝えてある」と話されました。

また、暮らしの中の男女共同参画を見直す話の中では、議員に立候補するにあたって、夫と家事などについて話し合った結果、真剣に向き合い、協力してくれ、今も夫妻で話し合い、助け合っているとのこと。そして、東日本大震災の時、女性が運営に加わっていた避難所では、細かな女性の悩みなども理解され、男女とも避難所生活が過ごしやすく改善されていたそうです。女性だからわかることがある、だからこそ男女が助け合えるのかもしれません。

女性の人権を考えるということは、男性の人権も考えるということにもなります。大きな視野に立ち、人としてどうあるべきかと考えることが大切で、男・女・老人・子ども・障がい者・性的マイノリティなど、お互いが尊重し合える社会を築くことが重要だと訴えていました。



(講演風景)



会場でのパープルライトアップ
(パープルライトアップは女性に対する暴力をなくす運動の一環です)

～目次～

- 1頁 ◆女性の人権を考える(企業人権啓発講演会)
- 2頁 ◆初めてのオンライン 日本女性会議
- 3頁 ◆言葉の学習 『ゲートキーパー』
◆地域を照らす 子育て&フルート&仕事
～マイ・ライフ・バランス～
- 4頁 ◆世界に学ぶ 女性の活躍
◆男女共同参画川柳
◆つなぐ

初めてのオンライン 日本女性会議 2020 あいち刈谷

日本女性会議が毎年開催されていることを、ご存知でしょうか？

1984年に始まったこの会議は、年1回、開催する都市を変えて行われています。令和元年度は、栃木県佐野市で開催予定でしたが、台風19号の影響により、直前での中止となりました。そして、令和2年度は、愛知県刈谷市の開催でしたが、コロナ禍の為、初のオンライン開催となりました。

「女性会議」というと女性ばかりが集まる会議のように思われますが、そうではありません。性別、国籍、障がいの有無に関係なく、一人ひとりがかけがえのない存在として生きることができる社会を目指して行われています。基調講演は、社会学者の上野千鶴子氏から「コロナ禍とジェンダー」という題で話を聞きました。その中では、聞き慣れない言葉もいくつか出てきました。そのうちの2つを紹介します。

[講演内での上野千鶴子氏による説明]

- * **フェミニズム** : 一般的には、男女同権論、女性解放思想であるが、さらに「弱者が弱者のまま尊重される社会」を目指すこと。
- * **ノブレスオブリージュ** : もともとフランス語。高貴なものの義務という意味。身分の高い者は、それに応じて果たさなければならない社会的責任と義務があるという、欧米社会における基本的な道徳観のこと。

ノブレスオブリージュについて、上野氏は平成31年度東京大学学部入学式の祝辞の中で「あなたの恵まれた環境を恵まれない人々を助けるために使って下さい」と話された。

さらに、東京大学初の車いす学生でもあった医師の熊谷晋一郎氏（小児科学、発達障がい当事者研究者）の書籍からは「自立とは、依存先の分散である」という言葉を引用し、「弱さを恥じる必要はない」「受援力（助けてと言える力）が必要」「生き延びる知恵は、能力やスキルがなくても能力のある人を調達する能力である」といった話をされました。

地元大学生からの育児への男性参画の質問に対して、「夫に対する交渉力を持つこと。男は女で変わる」「身近な人を変えられなくては、社会は変えられない」と実践的に答えていました。また、「配偶者自身が専業主婦である事を幸せに感じていたら、それでよいのか？」の質問に対しては「人生は長い、今の幸せがずっと続くとは限らない」という返答をされ「強者は強者のままではいけない」と言葉を続けたことが心に残りました。

初のオンライン開催でしたが、貴重な話を聴くことができました。聴いた話のいくらかでも誰かの心に届き、気づきのキッカケになればと思います。



リモートでの受講風景
(安曇野市役所 本庁舎内)



日本女性会議 2020 あいち刈谷

Japan Women's Conference 2020 in Aichi KARIYA

言葉の学習7

“ゲートキーパー”



昨年の夏ごろから、自殺者が増加傾向にあることが国から発表されました。自殺者が増えた要因や背景には、コロナ禍による経済的な事由と自粛要請からくる人間関係の問題や孤立感があるようです。増加の大半は、経済面や育児・介護で追い詰められた女性と、人間関係・学業・就労などの面で先が見通せない若者であることも分析されています。このような状況下で、「ゲートキーパー」という言葉が社会的にも注目されるようになりました。WHOや多くの国々でも自殺対策の分野で使用されています。「命の門番」とも言われ、身近な人が出す自殺の危険を示すサインに気づき、見守りや必要に応じて専門家へつなぐ役割を期待される人のことをいいます。特別な資格は必要なく、だれもがゲートキーパーになれます。

対応のながれは①気づき（家族や仲間のサインに気づいて声をかける）②傾聴（本人の気持ちを尊重し、耳を傾ける）③つなぎ（早めに専門家に相談するよう促す）④見守り（寄り添いながら、じっくり見守る）です。身近な人が「表情が暗い」「元気がない」などいつもとは違うと感じたら、声をかけて様子を聞いてみてください。まず、声をかけ「心配している」というメッセージを伝えることが大切です。あなたも、声をかけることから始めてみませんか？

地域を照らす

子育て&フルート&仕事

マイ・ライフ・バランス



豊科在住で三十代半ばの藤崎有李さんは、4歳と2歳の女の子の育児をしながら、バンド・グループのMAB（代表者 竹内益貴さん）のフルート奏者として活動をしています。独身であった10年ほど前に、当時の職場の方に誘われてMABに加わり、以来、仕事の傍ら毎週土曜日（午後1:30～4:30）に松本市四賀地区内にある練習会場へ通い続けています。



結婚し子育て中の今は、幼い二女を夫や親族に預け、長女を連れて四賀まで出向いています。

楽団構成メンバーの特色は、老若男女の幅広い年代層（幼児～70代後半）で、住んでいる地域も県内バラバラであることです。歳月の流れの中では、家族が増えたり、住まいが変わったり、仕事が変わったりと、ライフスタイルやメンバー構成の変遷もありました。現在は11名でいろいろな楽器パートを掛け持ちしながら、老人福祉施設や依頼された県内の近隣会場で演奏を続けています。

メンバーの子どもが加わり構成幅が広がった事により、いつか我が子と一緒にステージに立つ日が来るかもしれません。